

大野

概要

- みなさんのPCは、複数のCPUコアが搭載され ています
- スーパーコンピュータやワークステーションで
 並列計算をするための練習を自分のPCでやっ
 てみよう
- ラップトップPCで環境を作れば、家でもどこでも練習ができます
- WSL1 or WSL2を利用する

概要(並列計算)

- 複数のCPUコアが搭載されているにもかかわらず、普通にプログラムを作ったのでは、1コアしか使用していない
- 例えば、4コアあるのに1コアしか使わないのでは、潜在能力の25%しか使わないようなもの
- 上の例では、普通のプログラムはPCの潜在能力の25パーセントしか使えないが、並列のプログラムでは残りの75パーセントも使用する(北〇神拳に近いかも)
- 一騎打ち戦法から集団戦法へ

手順

以下を実行すれば、自分のPCでMPIやOpenMP が練習できるようになります。

- Windows Subsystem for LinuxでUbuntuを インストールする
- 2. X11系のアプリのインストール
- 3. gcc, g++, gfortran, makeのインストールと 動作確認
- 4. OpenMPIのインストールと動作確認

Windows Subsystem for Linux

- Windows 10には、WSLという仕組みがあり、それを使うと簡単にLinuxがインストールできる
- WSL1かWSL2、どちらかを選びUbuntuという Linusをインストールしてみよう

WSL1 -1



1.	コントロールバ	ペネルをひらく	\langle
	1. スタートボタ	ン	
	2. Windowsシスラ	テムツール	
2.	プログラムをク	ケリック	
	 ・コントロールパネル 		
	1ンビューターの設定を調整しま システムとセキュリティ コンビューターの状態を確認 フイル度度でカイルのバッ パックアップと復元(Window マットワークとインター・ ネットワークの状態をタスクの ハードウェアとサウンド デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパイスブリンターの表示 デパークとオンター・ エー プログラム マクラムやWindow トール、ガジェットのア・ ワークやオンラインから、 手などを行います。	ます 表示 1 1 2 90アップコピーを保存 ows 7) -ネット の表示 ド 5 00調整 0000 000 000 000 000 000 000 000 0	(方)

WSL1 -2

	プログラム >				~
ル ホーム Jティ 'ターネット	プログラムと機能 プログラムのアンインストール 以前のバージョンの Windows	Windows の機能 用に作成されたプログラン	<u>の有効化または無</u> うムの実行 ブ ログ	<u>効化</u> インストールされた更新プログラム プラムのインストール方法	aを表示
💽 Windows の機能		>	< \	F	
Windows の機能の有 機能を有効にするには、チェック グボックスをオフにしてください。 っていることを表します。 ■ .NET Framework ■ .NET Framework	効化または無効化 カボックスをオンにしてください。機能 塗りつぶされたチェック ボックスは、 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む) 4.8 Advanced Services ライトウェイト ディレクトリ サービス	能を無効にするには、チュ 機能の一部が有効にな	? 1. * 2.	│Windows 有効化また 化」を選択 「Linux用V ブシステム	sの機能の こは無効 マ Vindowsサ 」を
 ✓ Linux用Window Microsoft Defend ✓ Microsoft PDF 印 ✓ Microsoft XPS ド ☑ Microsoft メッセー Ⅲ □ MultiPoint Conne Ⅲ □ NFS 用サービス 	rs サブシステム der Application Guard 同 キュメント ライター ジ キュー (MSMQ) サーバー ector	く キャンセル	3.	チェック OKを押して などの指示	て、再起動 fiに従う

WSL1 -3



https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/wsl/install-win10

を参考にインストールしてみる 「LINUX用サブシステム」と「仮想マシンプラット フォーム」をチェックし、OK。再起動等

🔄 Windows の機能

×

?

Π

Windows の機能の有効化または無効化

機能を有効にするには、チェック ボックスをオンにしてください。機能を無効にするには、チェッ ク ボックスをオフにしてください。 塗りつぶされたチェック ボックスは、機能の一部が有効にな っていることを表します。

± 🗋	.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)	^
🗉 🔲 📜	.NET Framework 4.8 Advanced Services	
	Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス	
🗉 🔲 📜	Hyper-V	
	Internet Explorer 11	
	Linux 用 Windows サブシステム	
	Microsoft Defender Application Guard	
	Microsoft PDF 印刷	
	Microsoft XPS ドキュメント ライター	
🗉 🔲 📜	Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー	
± 💷	MultiPoint Connector	
± 💷	NFS 用サービス	\checkmark
	OK キャンセル	•

💽 Windows の機能

Windowsの機能の有効化または無効化

機能を有効にするには、チェック ボックスをオンにしてください。機能を無効にするには、チェッ ク ボックスをオフにしてください。 塗りつぶされたチェック ボックスは、機能の一部が有効にな っていることを表します。

 \times

 \bigcirc

🖽 🔲 📕 インターネット インフォメーション サービス	^
□ 1 インターネット インフォメーション サービスのホスト可能な Web コア	
🔲 📕 データ センター ブリッジング	
🗄 🔲 📕 デバイスのロックダウン	
□ □ ↓ メディア機能	
⊞ □	
☑ 📕 ワーク フォルダー クライアント	
🗄 🔳 📕 印刷とドキュメント サービス	
☑ 📕 仮想マシン プラットフォーム	
🔲 📕 簡易 TCP/IP サービス (echo、daytime など)	
□ 📕 保護されたホスト	~
OK キャンセル	/



• LINUXカーネル更新プログラムのインストール

https://wslstorestorage.blob.core.windows.net/wslblob/wsl_update_x64.msi

これをダウンロード、実行



Z 管理者: Windows PowerShell

PS C:¥Windows¥system32> <mark>wsl</mark> --set-default-version 2 WSL 2 との主な違いについては、https://aka.ms/wsl2 を参照してください PS C:¥Windows¥system32> _

• Windows Power Shellを管理者 として実行し

wsl $_$ --set-default-version $_ 2 \triangleleft$

• WSL1と同様にストアでubuntuを検索、インス トールする



• Power Shellでバージョンを確認

wsl__-l__-v 🖾

確かに、Version 2になっている

➢ 管理者:Windows PowerShell
PS C:¥Windows¥system32> ws | - | -v NAME STATE VERSION * Ubuntu-20.04 Running 2
PS C:¥Windows¥system32>

Windows Subsystem for Linux

いろいろなソフトをインストールする前 に、

- sudo apt-get update
- sudo apt-get upgrade

を入力する(重要!)

頻繁に実行しよう!

X11のアプリ

• X11のアプリを使うためにVcXsrv Windows X serverというWindows用ソフトをインストール する。



Xのアプリ(WSL1) -1

- グラフィカルなソフトが使えるようにしよう
- •X11のアプリをインストール



ohno@Akagi:~\$ sudo apt install ×11-apps

sudo apt install x11-apps

Xのアプリ(WSL1) -2



VcXsrv Windows X serverを起動して

• export DISPLAY=[PCの名前]:0.0

として、環境変数を設定すると、**x11**のアプリの Windowがオープンできるようになる

• [PCの名前]は、localhostでもOK

Xのアプリ(WSL2)-1

VcXsrv Windows X Serverの起動時に

Extra settings	×
Extra settings	
 Clipboard Start the integrated clipboard manager Primary Selection Also map the PRIMARY selection to the windows clipboard. Native opengl Use the native windows opengl library (wgl). Make sure to export the LIBGL ALWAYS JNDIRECT environment variable. Disable access control Use this when you want voxsrv to accept connections from all clients. Additional parameters for VoXsrv 	
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル	

ここにチェックを入れる

Xのアプリ(WSL2) -2

以下をUbuntuのWindowで入力 export DISPLAY=\$(cat /etc/resolv.conf | grep nameserver | awk '{print \$2}'):0.0



WSL2のXについては、 いろいろなサイトを見て回りました。 例えば、 https://github.com/microsoft/WSL/issues/4106#issuecomment-501885675

Xのアプリ(共通)-3

- geditなど、GUIなエディタも利用できるので、 インストールする
- xeyesを起動したままだと、次のコマンドが打 てないので、右上の×を押して終了する
- onekoという可愛いソフトもある

gccなどのインストール-1

- gccとコマンドを打つと、not foundとでるが、 インストールするためのコマンドも表示される ので、それをそのまま入力する
- sudo apt install gcc

ohno@Akagi:~
ohno@Akagi:~\$ gcc
Command 'gcc' not found, but can be installed with:
sudo apt install gcc
ohno@Akagi:~\$ sudo apt install gcc

gccなどのインストール-2

🧿 ohno@Akagi: ~

<u>Setting up libgomp1:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) ...</u> Setting up libquadmath0:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) Setting up libmpc3∶amd64 (1.1.0-1) ... Setting up libatomic1:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) ... Setting up libubsan1:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) ... Setting up libcrypt-dev:amd64 (1:4.4.10-10ubuntu4) ... Setting up libis|22:amd64 (0.22.1-1) ... Setting up libbinutils:amd64 (2.34-6ubuntu1.1) ... Setting up libc-dev-bin (2.31-Oubuntu9.2) Setting up libcc1-0:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) Setting up liblsan0:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) Setting up libitm1:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) Setting up gcc-9-base:amd64 (9.3.0-17ubuntu1~20.04) ... Setting up libtsan0:amd64 (10.2.0-5ubuntu1~20.04) Setting up libctf0:amd64 (2.34-6ubuntu1.1) ... Setting up libasan5:amd64 (9.3.0-17ubuntu1~20.04) ... Setting up cpp-9 (9.3.0-17ubuntu1~20.04) Setting up libc6-dev:amd64 (2.31-Oubuntu9.2) Setting up binutils-x86-64-linux-gnu (2.34-6ubuntu1.1) Setting up binutils (2.34-6ubuntu1.1) Setting up libgcc-9-dev:amd64 (9.3.0-17ubuntu1~20.04) ... Setting up cpp (4:9.3.0-1ubuntu2) ... Setting up gcc-9 (9.3.0-17ubuntu1~20.04) ... Setting up gcc (4:9.3.0-1ubuntu2) ... Processing triggers for man-db (2.9.1-1) Processing triggers for libc-bin (2.31-Oubuntu9.2) ... ohno@Akagi: \$

同様にして、g++, gfortran, makeをイン ストールする。

makeはmake-guileを 選択する。

なお

- gcc: C Compiler
- g++: C++ Compiler
- gfortran: Fortran Compiler

- **C, C++, Fortran**のプログラム入力と実行の手順
- Geditなどのエディタでプログラムを入力する (テキストファイル)
- •入力したプログラムを保存する
- コンパイラでコンパイルする→実行ファイルができる
 - ・
 文法エラーなどがあると、コンパイル時にエラーが 出てコンパイルできない
 - 論理的なエラーは検出されない
- 実行ファイルを実行する

1. gedit dとして、geditを起動する 2. プログラムをここに入力 3. 終わったら「Saxe」 Open -Ð *Untitled Document] Save 1 #in ボタンを押す 2 nt main(int argc, char **argv){ printf("Hello, World!\n"); return 0:

- 名前を入力して、「Save」ボタンを押す
- •ファイルが保存される

Name: test.c < 合 ohno → 🔂 Home C7 Desktop Name Size Type Modified mpitest 21 Apr 🖸 Filesyst... (📤 yypraview 20 Apr + Other Locations All Text Files 🔻 Character Encoding: Current Locale (UTF-8) - Line Ending: Unix/Linux • Cancel Save

#include<stdio.h>
int main(int argc, char **argv){
 printf("Hello, World!¥n");
 return 0;
}

```
🧿 ohno@Akagi: ~
```

ohno@Akagi:~\$ cat test.c #include<stdio.h>

```
int main(int argc, char **argv) {
  printf("Hello, World!¥n");
  return 0;
```

```
ohno@Akagi:~$gcc test.c
ohno@Akagi:~$Is
a.out test.c
ohno@Akagi:~$./a.out
Hello, World!
ohno@Akagi:~$
```

1. これをgeditで入力して、 test.cとして保存する 2. gcc ファイル名 とすると コンパイルできる 3. コンパイルすると、a.outと いう実行ファイルができる 4. カレントディレクトリを表 す./をつけて実行する gcc -o test test.cとすると、

a.outではなく、testという 実行ファイルができる



program helloworld
print *, "Hello, World!(F90)"
end program helloworld

test.f90

🧿 ohno@Akagi: ~
ohno@Akagi:~\$ cat test.f90 program helloworld print *,"Hello, World!(F90)" end program helloworld ohno@Akagi:~\$ gfortran test.f90 ohno@Akagi:~\$./a.out Hello, World!(F90) ohno@Akagi:~\$

- g++やgfortranでも、同じ ようにしてコンパイルで きる
- gfortran ファイル名

OpenMPの動作テスト-1

- 現在インストールされるgcc, g++, gfortranは、デフォルトでOpenMPの利用が可能
- コンパイル時に、-fopenmpオプションをつける

```
🔘 ohno@Akagi: ~/mpitest
#include <stdio.h>
                                                        @Akagi:~/mpitest$ cat omptest.c
                                                    #include <stdi<u>o.h></u>
#include <omp.h>
                                                    #include <omp.h>
                                                    int main(int argc, char **argv) {
                                                     int i:
int main(int argc, char **argv){
                                                    #pragma omp parallel for private(i)
                                                    for (int i=0; i<16; i++) {
int i;
                                                           printf("i=%d thread num = %d¥n", i, omp_get_thread_num())
#pragma omp parallel for private(i)
                                                    return 0;
for(i=0; i<16; i++){
                                                    ohno@Akagi:~/mpitest$
                                                    hno@Akagi:~/mpitest$ gcc -fopenmp omptest.c
  printf("i=%d thread num = %d¥n",
         i, omp get thread num());
                                                                            C言語
return 0;
                                                   omptest.c
```

OpenMPの動作テスト-2

- 現在インストールされるgcc, g++, gfortranは、デフォルトでOpenMPの利用が可能
- コンパイル時に、-fopenmpオプションをつける

program omptest use omp_lib		
integer :: i		
!\$omp parallel do private(i)		
do i=0, 15		
print *,"i and thread num ", i, omp_get_thread	_num()	
end do	🧿 ohno@Akagi: ~/mpi	est
	ohno@Akagi:~/ program ompte	<mark>mpitest\$ cat o</mark> mptest.f90 st
end program omptest	use omp_lib integer ∷ i	
	-!\$omp`paralle do i=0. 15	l do private(i)
omptest.f90	print *,"i end do	and thread num ",i,omp_get_thread_num()
	end program o ohno@Akagi:~/ ohno@Akagi:~/ ohno@Akagi:~/	mptest mpitest\$ mpitest\$ gfortran -fopenmp omptest.f90 mpitest\$

OpenMPの動作テスト-3

- 6コアのPCで実行したところ、スレッドが12(0~11)も生成 された(Hyper Threading)
- •環境変数やOpenMPの関数でスレッド数を制御できる

ohno@Akagi:~/mpitest\$ gcc -fopenmp omptest.c	ohno@Akagi:~/mpitest\$	gfortran - [.] /a out	fopenmp omptest.f90
i=4 thread num = 2	i and thread num	0	0
i=5 thread num = 2	i and thread num	1	0
i=12 thread num = 8	i and thread num	14	10
i=2 thread num = 1	i and thread num	2	1
i=3 thread num = 1	i and thread num	3	1
i=11 thread num = 7	i and thread num	11	7
i=0 thread num = 0	i and thread num	13	9
i=1 thread num = 0	i and thread num	6	3
i=8 thread num = 4	i and thread num	7	3
i=13 thread num = 9	i and thread num	12	8
i=15 thread num = 11	i and thread num	4	2
i=10 thread num = 6	i and thread num	5	2
i=14 thread num = 10	i and thread num	8	4
i=9 thread num = 5	i and thread num	10	6
i=6 thread num = 3	i and thread num	15	11
i=7 thread num = 3	i and thread num	9	5
ohno@Akagi:~/mpitest\$	ohno@Akagi:~/mpitest\$		



Fortran

MPI-1

. . .

- MPIを利用するために、OpenMPIのインストー ルを行う
- mpirunとコマンドを打ってみる
- openmpi-binを選ぶ

	🤨 ohno@Akagi: ~										
	ohno@Akagi:~\$ mpirun										
	Command 'mpirun' not found, but can be installed with:										
	sudo apt install lam-runtime										
<	sudo apt install openmpi-bin										
	ohno@Akagi:~\$ sudo apt install openmpi-bin										

MPI -2

MPIを用いたプログラムのコンパイルには、

- mpicc: C言語のプログラム
- mpic++:C++言語のプログラム
- mpif90: Fortran言語のプログラム

を利用する。

後述するが、-fopenmpと組み合わせることも可 能で、この場合、MPIとOpenMPのハイブリッド 並列化される

ohno@Akagi:~
ohno@Akagi:`\$ cat mpitest.c
#include <stdio.h>
#include <mpi.h"
int main(int argc, char **argv) {
 int np, myrank;
 MPI_Init(&argc, &argv);
 MPI_Comm_size(MPI_COMM_WORLD, &np);
 MPI_Comm_rank(MPI_COMM_WORLD, &myrank);
 printf("Hello, World myrank=%d size = %d¥n", myrank, np);
 MPI_Finalize();
 return 0;
}
ohno@Akagi:`\$ mpicc mpitest.c
ohno@Akagi:`\$
</pre>

- C言語のMPIプログラムをmpiccでコンパイル
- 各プロセスが、Hello,Worldを表示する

```
#include <stdio.h>
#include "mpi.h"
int main(int argc, char **argv){
    int np, myrank;
    MPI_Init(&argc, &argv);
    MPI_Comm_size(MPI_COMM_WORLD,&np);
    MPI_Comm_rank(MPI_COMM_WORLD, &myrank);
    printf("Hello, World myrank=%d size = %d¥n", myrank, np);
    MPI_Finalize();
    return 0;
}
```

```
#include <iostream>
#include "mpi.h"
using namespace std;
int main(int argc, char **argv){
int np, myrank;
 MPI Init(&argc, &argv);
 MPI_Comm_size(MPI_COMM_WORLD,&np);
 MPI_Comm_rank(MPI_COMM_WORLD, &myrank);
cout << "Hello, World myrank="<< myrank << " size = "<<np<<"¥n";</pre>
 MPI Finalize();
return 0;
```



ohno@Akagi: \$ mpicc mpitest.c ohno@Akagi:~\$ mpirun -np 4 ./a.out

WARNING: Linux kernel CMA support was requested via the btl_vader_single_copy_mechanism MCA variable, but CMA support is not available due to restrictive ptrace settings.

The vader shared memory BTL will fall back on another single-copy mechanism if one is available. This may result in lower performance.

Local host: Akagi

Hello, World myrank=1 size = 4 Hello, World myrank=2 size = 4 Hello, World myrank=0 size = 4 Hello, World myrank=3 size = 4 [Akagi:00057] 3 more processes have sent help message help-btl-vader.txt / cma-permission-denied [Akagi:00057] Set MCA parameter "orte_base_help_aggregate" to 0 to see all help / error messages ohno@Akagi: \$

実行には、mpirunを使う • mpirun –np [プロセス数] [program] [プロセス数]のところには、MPIプロセスの数、 [program]のところにはプログラム名 例では、プロセス数4で、カレントディレクトリのa.out を実行している(何か警告が出ている)

🧿 ohno@Akagi: ~

ohno@Akagi:~\$ cat mpitest.f90 program mpitest use mpi implicit n<u>one</u>_____

integer :: np, myrank integer :: ierr

call mpi_init(ierr)
call mpi_comm_size(mpi_comm_world, np, ierr)
call mpi_comm_rank(mpi_comm_world, myrank, ierr)
print *, "Hello, World myrank and size = ", myrank, np
call mpi_finalize(ierr)

Fortranでも同様に、 プログラム実行には mpirunを使う

end program mpitest ohno@Akagi:~\$ mpif90 mpitest.f90

ohno@Akagi:**`\$ mpirun -np 4** ./a.out

WARNING: Linux kernel CMA support was requested via the btl_vader_single_copy_mechanism MCA variable, but CMA support is not available due to restrictive ptrace settings.

The vader shared memory BTL will fall back on another single-copy mechanism if one is available. This may result in lower performance.

Local host: Akagi

Hello, World myrank and size = 2 4 Hello, World myrank and size = 3 4 Hello, World myrank and size = 0 4 Hello, World myrank and size = 1 4 [Akagi:00256] 3 more processes have sent help message help-btl-vader.txt / cma-permission-denied [Akagi:00256] Set MCA parameter "orte_base_help_aggregate" to 0 to see all help / error messages ohno@Akagi:~\$

```
program mpitest
use mpi
implicit none
integer :: np, myrank
integer :: ierr
call mpi init(ierr)
 call mpi_comm_size(mpi_comm_world,np,ierr)
 call mpi_comm_rank(mpi_comm_world,myrank,ierr)
 print *,"Hello, World myrank and size = ", myrank, np
 call mpi finalize(ierr)
```

end program mpitest

mpitest.f90

Ohno@Akagi: ~

hno@Akagi:~\$ mpirun -np 8 ./a.out

There are not enough slots available in the system to satisfy the 8 slots that were requested by the application:

./a.out

Either request fewer slots for your application, or make more slots available for use.

A "slot" is the Open MPI term for an allocatable unit where we can launch a process. The number of slots available are defined by the environment in which Open MPI processes are run:

- 1. Hostfile, via "slots=N" clauses (N defaults to number of processor cores if not provided)
- 2. The --host command line parameter, via a ":N" suffix on the hostname (N defaults to 1 if not provided)
- Resource manager (e.g., SLURM, PBS/Torque, LSF, etc.)
 If none of a hostfile, the --host command line parameter, or an RM is present. Open MPI defaults to the number of processor cores

In all the above cases, if you want Open MPI to default to the number of hardware threads instead of the number of processor cores, use the -use-hwthread-cpus option.

Alternatively, you can use the --oversubscribe option to ignore the number of available slots when deciding the number of processes to aunch.

ohno@Akagi:~\$ 🗕

 6コアのパソコンで8プロセスで起動しようとしたら、エ ラーが出た。コアの数を超えるプロセスは生成できない 設定のようだ

🧿 ohno@Akagi: ~

ohno@Akagi:~\$	mpirun	-oversi	ubscribe	mca	btl	vader s	ingle	e copy m	iechan i s	m none	e -np 4	./a.out
Hello, World	myrank	and siz	ze =		2		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		3		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		0		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		1		4					
ohno@Akagi:~\$	mpirun	-oversi	ubscribe	mca	btl	_vader_s	ingle	e_copy_m	iechanis	m none	e -np 8	./a.out
Hello, World	myrank	and siz	ze =		3		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		5		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		6		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		1		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		2		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		4		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		7		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		0		8					
ohno@Akagi:~\$	alias r	mpirun='	mpirun	-oversi	ubsc	ribem	ca bt	tl_vader	_single	_copy_	mechani	sm none'
ohno@Akagi:~\$	mpirun	-np 4 .	/a.out									
Hello, World	myrank	and siz	ze =		1		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		2		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		3		4					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		0		4					
ohno@Akagi:~\$	mpirun	-np 8 .	/a. out									
Hello, World	myrank	and siz	ze =		0		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		3		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		4		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		5		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		6		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		7		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		1		8					
Hello, World	myrank	and siz	ze =		2		8					
ohno@Akagi:~\$												

(解決法は検索 して見つけま した)

おまじないをつけることで、警告やエラーをでなくできる。 aliasという機能で、mpirun自体をおまじない付きにする mpirun -oversubscribe --mca btl_vader_single_copy_mechanism_none

MPI+OpenMPの動作テスト (C言語)-1

🧿 ohno@Akagi: ~/mpitest

```
ohno@Akagi: ~/mpitest$ cat hybtest.c
#include <stdio.h>
#include <stdio.h>
#include <mpi.h~
int main(int argc, char **argv) {
    int i, np, myrank;
    MPI_Init(&argc, &argv);
    MPI_Comm_size(MPI_COMM_WORLD, &np);
    MPI_Comm_rank(MPI_COMM_WORLD, &myrank);
    omp_set_num_threads(3);
#pragma omp parallel for private(i)
for(i=0:i<3;i++) {
    printf("Hello, World myrank=%d size = %d thread =%d¥n", myrank, np, omp_get_thread_num());
    }
    MPI_Finalize();
    return 0;
}
ohno@Akagi: ~/mpitest$ mpicc -fopenmp hybtest.c
```

```
ohno@Akagi:~/mpitest$
```

 MPIとOpenMP両方で並列化するプログラムのコンパイ ルには、mpiccやmpif90に-fopenmpオプションを付け加 えればよい

MPI+OpenMPの動作テスト (C言語)-1

```
#include <stdio.h>
#include <omp.h>
#include "mpi.h"
int main(int argc, char **argv){
 int i, np, myrank;
 MPI Init(&argc, &argv);
 MPI Comm size(MPI COMM WORLD,&np);
 MPI Comm rank(MPI COMM WORLD, & myrank);
 omp set num threads(3);
#pragma omp parallel for private(i)
for(i=0;i<3;i++){
 printf("Hello, World myrank=%d size = %d thread =%d¥n",
    myrank, np, omp get thread num());
}
 MPI Finalize();
 return 0;
```

MPI+OpenMPの動作テスト (C言語)-2



- このプログラムでは、omp_set_num_threads(3)でス レッド数を3にしている
- 実行すると、各MPIプロセス(myrank=0, 1)で、OpenMP のスレッドが3(thread = 0, 1, 2)つ生成される
- このプログラムでは、MPIプロセスx2、各MPIプロセス
 でOpenMPスレッドx3なので、合計2x3=6コア使う

MPI+OpenMPの動作テスト (Fortran)-3

```
🔇 ohno@Akagi: ~/mpitest
ohno@Akagi:~/mpitest$ cat hybtest.f90
program hybridtest
use mpi
use omp lib
implicit none
integer :: i, np, myrank
integer :: ierr
  call mpi init(ierr)
  call mpi_comm_size(mpi_comm_world, np, ierr)
  call mpi_comm_rank(mpi_comm_world, myrank, ierr)
  call omp_set_num_threads(3)
  !$omp parallel do private(i)
  do i=0. 2
    print *, "Hello, World myrank, size, threadn = ", myrank, np, omp_get_thread_num()
  end do
  call mpi_finalize(ierr)
end program hybridtest
ohno@Akagi:~/mpitest$ mpif90 -fopenmp hybtest.f90
ohno@Akagi:~/mpitest$ mpirun -np 2 ./a.out
 Hello, World myrank, size, threadn =
                                                                       2222222
 Hello, World myrank, size, threadn =
                                                                                     0
2
1
 Hello, World myrank, size, threadn =
                                                         0
 Hello, World myrank, size, threadn =
                                                         0
                                                                                     02
 Hello, World myrank, size, threadn =
 Hello, World myrank, size, threadn =
phno@Akagi:~/mpitest$ _
                                                         0
```

• これで並列計算の練習ができるようになった!

MPI+OpenMPの動作テスト (Fortran)-3

```
program hybridtest
use mpi
use omp lib
implicit none
integer :: i, np, myrank
integer :: ierr
 call mpi init(ierr)
 call mpi comm size(mpi comm world, np, ierr)
 call mpi comm rank(mpi comm world, myrank, ierr)
 call omp set num threads(3)
 !$omp parallel do private(i)
 do i=0, 2
  print *,"Hello, World myrank, size, threadn = ", myrank, np, omp_get_thread_num()
 end do
 call mpi finalize(ierr)
```

end program hybridtest

hybtest.f90

.bashrcの編集(WSL1)

🗿 ohno@Akaqi: -

- displayもmpirunもubuntu起動時に設定したい
- •.bashrcに付け加えることで実現できる

ias alert='notify-send --urgency=low -i "\$([\$? = 0] && echo terminal || echo error)" "\$(histo tail -n1|sed -e '¥''s/^¥s*[0-9]¥+¥s*//;s/[;&|]¥s*alert\$//'¥'')"' [-f ~/.bash_aliases]; then . ~/. bash_aliases ! shopt -og posix; then if [-f /usr/share/bash-completion/bash_completion]; then /usr/share/bash-completion/bash completion elif [-f /etc/bash_completion]; then /etc/bash completion export DISPLAY=Akagi:0.0 alias mpirun='mpirun -oversubscribe --mca btl vader single copy mechanism none' 118.0-1 Bot .bashrc 121L, 3878C written

DISPLAYやmpirun のあたりのこと を.bashrcに書い てしまう

.bashrcの編集(WSL2)

- displayもmpirunもubuntu起動時に設定したい
- •.bashrcに付け加えることで実現できる

🧿 ohno@Akagi: ~

lias alert='notify-send --urgency=low /^¥s*[0-9]¥+¥s*//;s/[;&|]¥s*alert\$//' [-f ~/.bash_aliases]; then ~/.bash_aliases ! shopt -og posix; then if [-f /usr/share/bash-completion/bash_completion]; then /usr/share/bash-completion/bash_completion elif [-f /etc/bash_completion]; then /etc/bash_completion xport DISPLAY=\$(cat /etc/resolv.conf | grep nameserver | awk '{print \$2}'):0. lias mpirun='mpirun -oversubscribe --mca btl_vader_single_copy_mechanism none

DISPLAYやmpirun のあたりのこと を.bashrcに書い てしまう

".bashrc″ 121L, 3933C

.bashrcの編集(共通)

- •. bashrcは、ホームディレクトリにある
- |sでは見えない。|s -a で見える
- gedit __. bashrc <□とすると、geditで編集できるようになる
- •「Save」ボタンを押して上書き保存する

Win側とのファイルのやりとり

- Ubuntuから、Cドライブなどにアクセスしたい場合は、/mnt/ドライブとする
- •例えば、c:¥dataにあるcのプログラム(拡張子がc) のファイルをカレントディレクトリにコピーし たい場合は、

cp __/mnt/c/data/*.c __.⊲

とすればよい。

これでWindows側とファイルのやり取りができる。